



がんセンターだより

第77号
令和8年3月発行

〒362-0806

埼玉県北足立郡伊奈町大字小室780

電話番号：048-722-1111(代表)

F A X：048-722-1129

HP：https://www.saitama-pho.jp/saitama-cc/



基本理念「唯惜命」

私達は生命の尊厳と倫理を重んじ、
先進の医療と博愛・奉仕の精神によって、
がんで苦しむことのない世界をめざします。

発行
埼玉県立がんセンター
発行責任者
病院長 影山幸雄

定年退職にあたって



病院長

影山 幸雄

2006年に埼玉県立がんセンターに赴任してから20年が経過し、定年を迎えることになりました。1985年に東京医科歯科大学（現・東京科学大学）を卒業、縁あって泌尿器科に入局、その後春日部市立病院、埼玉医科大学で研鑽を積み、大学へ戻っ

て木原和徳教授が取り組んでおられたミニマム創手術開発普及活動を支えながら低酸素応答遺伝子の解析を軸とした基礎研究にも取り組ませていただきました。

当センターに異動後はミニマム創手術を軸とした低侵襲外科治療に精力的に取り組み、当時は埼玉県内でもトップレベルの手術実績をあげていたと思います。自分なりのフィロソフィーを組み込んだミニマム創手術のエッセンスをまとめて医学書院から2冊の手術書を発刊することができました。一方で前立腺全摘に対するロボット支援手術が保険診療として認められ全国的に普及しました。当センターでも2014年の建て替えの際に手術支援ロボットを導入しました。その後泌尿器科以外の診療科でも導入が進み、県立病院を統括する法人本部と交渉して2台体制となりました。現在では年間400件以上のロボット支援手術が行われており、若い先生方の研鑽も積極的に進めています。現在泌尿器科は私の後任として松岡先生が科長に就任、ロボット支援手術を中心にミニマム創手術、腹腔鏡手術も取り入れた包括的な低侵

襲手術治療体制を整えています。また平行して限局性前立腺がんに対するfocal therapyなど先進的な治療にも取り組んでくれています。

当センター勤務の20年の間、関係職員の皆様に公私にわたり支えていただきました。2016年に妻が子宮癌で亡くなった際には多大なご支援をいただき心から感謝申し上げます。積極的治療を勧めましたが本人は頑なに拒み、「残された時間をネネちゃん（ヨークシャーテリアの子犬）と一緒に過ごしたい、緩和ケアの先生を紹介して」との一点張りでした。当時の緩和ケア科長の余宮先生に事情をお話し、今後について詳細に説明いただきました。幸い痛みは鎮痛剤と放射線治療で改善し、多くの時間を自宅で過ごすことができました。最後に入院した際に担当の看護師さんに「私が亡くなったらこのワンピースを着せてほしい、犬のぬいぐるみをネネちゃんの代わりに私のわきに置いてほしい、おねがい」と何度も告げていました。早朝に息を引きとりエンゼルケアが終了してきれいになった由美ちゃんを見てびっくりしました。生前に何度も妻が語っていた姿そのままだったからです。本人の気持ちを汲んで適切に対応してくれた担当看護師さんの優しさをしみじみと感じました。まさか自分が勤務する病院で看取ることになるとは思ってもみませんでした。幸いな最後だったと思います。以上少し長くなりましたが定年退職にあたってのご挨拶に代えさせていただきます。



埼玉県立がんセンター開設50周年記念 講演会・式典・祝賀会が開催されました



令和7年11月22日（土）、ロイヤルパインズホテル浦和において埼玉県立がんセンター開設50周年記念講演会・式典・祝賀会が開催されました。

県立がんセンターは、埼玉県施行100周年記念事業の一環として、昭和50年11月1日に開設されました。今年度開設50周年を迎えるに当たり記念行事を実施するため、令和6年12月に実行委員会を設置し、準備を進めてきました。

当日は大野知事、白土県議会議長、上田清司参議院議員ほか15名の国会議員、関根信明県議会議員ほか31名の県議会議員、大島伊奈町長、金井県医師会長など211名にご出席いただきました。

皆さまのご尽力のおかげをもちまして盛況のうちに閉会することができました。ご協力いただいた皆様に、心よりお礼申し上げます。



なお、埼玉県の方からは知事・県議会議長より、以下のとおりX上でのコメントを頂いております。

大野もとひろ 埼玉県知事 @oonomotohiro · 2025年11月23日

★埼玉県立がんセンターが開設50周年を迎えました

昭和50年11月の設立以来、埼玉県の中核的ながん専門医療機関として最新、最良のがん医療を提供するとともに、がんに関する研究を精力的に進めています。

- ・患者の負担の少ない低侵襲ロボット支援下手術
- ・AIを活用した高精度放射線治療
- ・がんゲノム医療拠点として患者の遺伝子情報に基づく最適な医療の提供などは、半世紀にわたり高度ながん医療の提供に挑み続けてきた県立がんセンターの成果の一例です。

また、患者サポートセンターでは、入院前から退院後までシームレスに患者サービスを提供するとともに、一般の方からのがんに関する相談にも広く対応するなど、患者が安心して治療・療養できるための取組を進めています。

さらに、研修や技術支援等を通じて地域の医療機関との連携を進め、本県のがん医療をけん引する役割を担っていただいています。

昨日は県立がんセンターの開設50周年記念式典に出席し、長年にわたり、日夜不断的な努力を重ねてこられた医療スタッフはじめ職員や関係の方々に、深く敬意と感謝の思いを申し上げます。

次の半世紀に向けて、これからも新たな挑戦を続け、本県のがん医療の更なる充実に貢献していただくことを期待しています。



埼玉県議会 @saitamakengikai · 2025年11月27日

11月22日(土)、さいたま市内で行われた埼玉県立がんセンター開設50周年記念式典・祝賀会に白土幸仁議長が出席し「病院として掲げる『唯借命〜ただ命を借しむ〜』という理念と、県民の健康、そして県民の幸せということを目指して、一步一步前に進むことが重要と考えております。」と祝辞を述べました。



開院50周年の節目を迎えて

更なる地域連携強化を目指し、 がんセンター主催による 地域医療機関との 「連携を深める会」開催！！



令和7年12月5日（金）、がんセンターが主催となって日頃お世話になっている地域医療機関の皆さまをご招待しての「連携を深める会」を開催しました。本会は、地域医療機関に携わる医療機関の皆様と意見交換の場を設け、お互いが有する医療機能や情報を共有し、地域の皆さまに適切な医療を提供することを目的としています。

当日は地域医療機関から36名の医師が参加、また当院からは22診療科42名の医師と看護部、コ・メディカル、事務を含め総勢141名もの多くの皆さまに参加いただきました。

本会は2部構成で、第1部では、地域医療機関を対象に事前に行ったアンケート結果をもとに講演内容を決めました。「放射線治療について」放射線治療科の工藤科長、「ゲノムについて」遺伝科の吉田科長よりそれぞれ講演いただきました。工藤科長からは最近の放射線治療の技術的進歩に加え、緩和対象になった患者さんに対する放射線治療の話しを、吉田先生からはがんゲノムに基づいたこれからの医療の方向性や具体例まで幅広くお話しいただきました。また、患者サポートセンターの別府センター長より今年度力を入れて行ってきた前方連携、後方連携の取り組みについて実績報告とオンライン予約

システムについて紹介がありました。

その後、第2部となる懇親会では会場を1階ホスピタルストリートに移して北足立都市医師会顧問で内田クリニック院長の内田治先生よりご挨拶いただき、乾杯の音頭とともに懇親会が開始され、各席上では様々な情報交換が行われました。また消化器外科肝胆膵外科長の高橋先生からは膵がん早期診断外来開設に伴うお知らせをいたしました。多くの皆さまと交流が図られ、大変有意義な時間を過ごすことができました。締めくくりに、別府副病院長より、日頃がんセンターに対してたくさんの患者さんを紹介いただき感謝申し上げますとともに今後、より一層緊密な医療連携を進め地域医療に貢献していく方針を述べられ、締めくくられました。

がんセンターの50周年の節目にふさわしい盛大な会となり、ご参加いただきました方々には心より感謝申し上げます。それとともに、今後ますます地域の皆様とともにがん医療の発展に邁進し当院も成長して参ります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



第50回埼玉県民のための“がんの集い”を開催しました。



令和8年1月24日（土）に、「第50回 埼玉県民のための“がんの集い”」をさいたま市のソニックシティ国際会議室において開催しました。

「ここまで進んだ肺がん治療」を総合テーマとし、3名の医師が講演しました。

当日は119名の方が来場し、最後まで熱心に耳を傾けていただきました。来場者からは「丁寧な説明でとても分かりやすかった」、「技術の進歩に驚いた」、「がんは治る病気であることが分かった」など、

たくさんのご感想をいただきました。

今回の「がんの集い」でも、県民の皆様にご覧いただける貴重な場であることを改めて確認することができました。皆様にご協力いただきましたアンケートの結果を踏まえ、引き続き充実した講演を実施してまいります。

また、今回の講演をより多くの方にご覧いただけるよう、埼玉県立がんセンター公式YouTubeチャンネルに講演会の動画を投稿いたしました。

(がんの集い実行委員会)

～ 講演内容・講演者 ～

- ① 肺がんの手術 最新の話題
中島 由貴 (胸部外科 科長兼診療部長)
- ② 肺がん治療における放射線治療の役割
牛島 弘毅 (放射線治療科 医長)
- ③ 病理診断は肺がん治療の道しるべ
元井 紀子 (病理診断科 副部長)

がんゲノム医療Bridge Meeting —多職種協働の架け橋— を開催しました!

当センター遺伝科より、2025年最後の活動報告をいたします。2019年より保険診療として開始されたがんゲノム医療で、当院はがんゲノム医療拠点病院としての役割を担っています。

がんゲノム医療は医師だけではなく、看護師、薬剤師、認定遺伝カウンセラー、検査技師、医療事務等の多職種で力を合わせて運営していくことが必要です。2025年6月に、当センターに連携くださっている病院を中心に、Provide-P「がんゲノム治療のための多職種連携カンファレンス」を開催し、各病院の取り組みや課題について職種ごとに意見交換を行いました。その半年後の12月に、振り返りとその後の進捗報告を兼ねたがんゲノム医療Bridge Meetingを行いました。現地開催のみでしたが、

当日は6施設55名の方が参加され、施設ごとにご発表頂き、意見交換、情報交流を行いました。2026年も引き続き埼玉県のがんゲノム医療を支えていきたいと思っております。

がんゲノム医療 Bridge Meeting —多職種協働の架け橋—

12月10日(水) 19:00～20:30

会場：ホテルプラザシティ 2F『サファイア』
さいたま市中央区新都心2-2 TEL:048-601-9555

※会費7割に立席による情報交換会も開催しております。
※会場での入場には事前申し込みが必要です。ご来場の際は必ず申し込みからご参加費をお支払いいただきます。(申込 12月5日(金))
<https://forms.office.com/e/evc7Zae55>

講演1 19:00～19:20
司会：佐々木 暹先生 消化器がんセンター 消化器科 部長
基講：近藤 千鶴先生 埼玉済生会がんセンター 腫瘍内科 科長兼診療部長
『原発不明がん診療と遺伝子パネル検査』
講演2 19:20～19:45
司会：若原 圭先生 がんゲノム医療センター 乳癌科 診療科長兼部長 主任医官
基講：林 嘉実先生 埼玉県立がんセンター 腫瘍内科 部長
『がんゲノム医療ってなに?』
Discussion 19:45～20:25
司会：吉田 玲子先生 埼玉県立がんセンター 腫瘍内科 部長
『各施設の取り組み状況の共有』
基講：尾田 直健先生 がんゲノム医療センター 腫瘍内科 部長
基講：杉本 紗伸先生 がんゲノム医療センター 腫瘍内科 部長
基講：杉山 翔子先生 埼玉県立がんセンター 外科 部長
基講：戸崎 寛人先生 上野中央総合病院 腫瘍内科 部長
閉会の辞 20:25～20:30
幹事：影山 幸雄先生 埼玉県立がんセンター 腫瘍内科 部長



がんセンター
公式SNS



Instagram



X(旧Twitter)



YouTube

当センターは「全診療科予約制」「紹介制」です

詳しくはHPの受診案内をご覧ください

予約受付時間 平日の午前8時30分から午後5時まで

電話番号 048-722-3333(予約専用電話)

